

はじめに

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団

理事 浅見俊雄

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団は、2006（平成18）年の財団設立当初から、スポーツ医・科学の研究者および競技者として世界に羽ばたこうという志を持った人材に対する助成事業を中心に、我が国のスポーツ振興・発展に寄与する事業を展開している。

その中で、日本のスポーツ環境に関する社会学的な調査研究の必要性を感じて、2012（平成24）年から財団独自の研究班を立ち上げてプロジェクト研究を進め、毎年その成果を報告書にまとめて公表してきた。

本報告書は、2017（平成29）年に実施した「障害者スポーツの振興と強化に関する調査研究—テレビCF、大学の先進的取り組み、地域現場の実態に注目して—」というテーマでの研究成果を取りまとめたものである。

第1章で、これまでの活動を振り返りつつ、本年度より新たに取り組んだテーマの意義や目的を整理しながら、実施した各調査報告を短くまとめている。

第2章では、昨年（平成28年）度の報告書でリオ2016大会を含む過去3つのパラリンピック大会での「テレビメディアによる障害者スポーツ情報発信環境調査」を報告したが、今回は障害者スポーツをテーマや出演者に採用したテレビコマーシャルの製作実績について2008年まで遡り、現在に到る傾向や変化を分析している。

第3章では、昨年度に引き続き「障害者スポーツの普及や障害者を取巻く社会的環境改善に向け先進的取り組みを行っている大学等の調査」を行った結果を報告している。車椅子ソフトボールの普及に取り組む北翔大学、大学間連携や医・科学的アプローチを加えたボッチャ普及に取り組む大阪府立大学、茨城県行政と連携してアダプテッド体育・スポーツ学寄附講座を開設した筑波大学、北海道網走市に新設された日本体育大学附属高等支援学校など、それぞれ独自の取り組みは興味深いものになっている。

第4章では、今年度から新たに「地域における障害者スポーツの実態」に着目し、まずは当財団の膝元である静岡県内を調査対象地区として取り組んだ結果をまとめて

いる。東京 2020 パラリンピック開催決定で東京を中心に国内全域で障害者スポーツへの関心の高まりや環境改善が期待されているが、地方の現場では何が起きているかを確認いただきたい。

最後に、2017（平成 29）年 11 月に東京で行われた、当財団主催のシンポジウム「障害者スポーツのテレビ放送における社会発信の変化」の内容が報告されている。こちらは、障害者スポーツをテレビで扱う上の課題などをテレビ製作者と障害者スポーツのトップ選手の両者が意見を交わすという興味深いものになっている。これらが障害者スポーツを取巻く社会的環境改善の一助となることを願っている。

■目次

はじめに	1
第1章 平成29年度活動総括	5
第2章 テレビコマーシャルにおける障害者スポーツ調査	9
第3章 大学の先進的取り組み調査	16
第4章 地域現場における実態調査	41
第5章 2017シンポジウム抄録	79
あとがき	88
附録 各種調査票	90

■ 障害者スポーツ・プロジェクト

監修	浅見俊雄	東京大学・日本体育大学 (公財) ヤマハ発動機スポーツ振興財団	名誉教授 理事
リーダー	藤田紀昭	日本福祉大学スポーツ科学部	教授
メンバー	小淵和也	(公財) 笹川スポーツ財団スポーツ政策研究所	主任研究員
	河西正博	同志社大学スポーツ健康科学部	助教
	齊藤まゆみ	筑波大学体育系	准教授
	中森邦男	(公財) 日本障がい者スポーツ協会強化部 日本パラリンピック委員会	部長 事務局長
事務局	尾鍋文光	(公財) ヤマハ発動機スポーツ振興財団	

2018 (平成 30) 年 3 月 31 日現在

